

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program)

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

キャンパスアジアワークショップ(ソウル大学校)



学生交流協定(覚書)の締結

2011年、東京大学、北京大学、ソウル大学校の連名による学生交流の覚書を締結。2012年、キャンパスアジア学生ワークショップを開催し、ソウル大学校、北京大学での学生交流を行った。

キャンパスアジアコースの開設準備：公共政策大学院

ソウル大、北京大で修得した単位の振替を修了要件に入れた「キャンパスアジアコース」を平成25年4月に開設予定、平成24年に約10名の募集を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ71名(実数は約半数)の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ74名(実数は約半数)の受入を行う。交換留学は2学期間で2カ国、ダブル・ディグリーは3学期間で2カ国の派遣、受入となる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C5, K3	C10, K10	C11, K11	C12, K12
中国への受入	0	J3, K5	J7, K10	J11, K10	J14, K12
韓国への受入	0	J4, C5	J7, C10	J11, C10	J14, C12

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して教員や先方大学とも連携をとってサポートする。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行う。また帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促す。

外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京工業大学

【構想の名称】(タイプA－ I CAMPUS Asia Pilot Program)

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方としている。このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行う。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整える。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行う。相手大学からの学生に対し本学は、来日前からOCWなどをとおした情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行う。



○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

ASPIRE League students' workshop



○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定

サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを決定した。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣する学生を、学内公募をとおして選考、決定した。

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学の構想責任者および関係教職員が頻繁に相手大学を訪問し、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを実施している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTにそれぞれ5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTからそれぞれ5人(計10人)の学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C5, K5	C5, K5	C5, K5	C5, K5
中国への受入	0	J5, K5	J5, K5	J5, K5	J5, K5
韓国への受入	0	C5, J5	C5, J5	C5, J5	C5, J5

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

「英語塾(仮称)」を開設し、留学を志望する学生の語学力の向上をはかる。また、新たに留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行う。留学中は、メール等により修学・生活上の相談を行うとともに、キャリアアドバイザーによる帰国後のキャリアに関する助言を行う。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、相手大学と緊密な連絡を取り円滑な受入れに努める。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、また、24時間体制のカウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行う。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページを通じた情報の提供および卓越した人材の輩出

プログラム実施については、独自のホームページを開設するとともに、既存の本学英文ホームページや相手大学のホームページと関連させ、参加学生に留まらない、幅広い層を対象に情報の提供を行う。また、「修学・研究計画書」の利用や共通性の高い成績管理などは、他大学も参考にできる形で開示する。プログラムの成果は、最終的には卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材として結実するが、将来的には、輩出された人材のネットワーク化を目指す。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 一橋大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program)

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ダブル・ディグリー・プログラム

一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校でそれぞれ必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができるようになります。平成25年9月より派遣・受入を開始する予定で、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作り役に役立っています。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

北京、ソウル、東京の各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



○ 学期間交換留学生を一橋ICSからソウル大学へ派遣

アジア・ビジネスリーダー・プログラムの学期間交換留学制度を活用し、平成24年1月に一橋ICSからソウル大学へ学生を1名派遣。韓国の伝統や文化に触れる機会を得て、アジアを代表するビジネス・リーダーに向けた経験を得ることができました。

○ 専用ホームページ作成

本プログラムの取り組み、共同研究や担当教員の活動などを紹介することで、幅広く本プログラムの特長を周知できるようになりました。一橋ICSへの入学希望者には、一橋ICSの優位性や独自性をアピールすることができるようにもなりました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 一橋ICSへの留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C0, K0	C2, K0	C3, K3	C3, K3	C3, K3
中国への受入	0	2	3	3	3
韓国への受入	1	2	3	3	3

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注) H23は実績、H24は予定、H25以降は計画。

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生は、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と滞在費の負担と、フォローアップ体制

学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生は、一橋ICSに滞在する期間の宿舍費を本プログラムが負担します。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

○ 卒業生のネットワーク、同窓会組織の創設

本プログラムに参加し、卒業した学生のデータベースを管理し、同窓会組織を創設します。卒業生は将来的にシンポジウムやCEO講演シリーズ、短期集中プログラムなどへの参加が可能になります。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 政策研究大学院大学

【構想の名称】(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

科学的合理性に根ざした現実的課題解決能力という個人的能力を涵養する一方で、学生同士が同じ科学的合理性を共有することを通じて真に相互信頼できる人的ネットワークを形成させて組織的能力も高める。これにより、日中韓の政策立案・管理運営能力の高度化と、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDIスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策家教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ KDIスクール及び清華大学との間でダブル・ディグリー及び単位互換制度についての詳細の検討

平成24年秋からの本格的な学生交換の開始を目指して、3学問での単位・学位認定方式についての枠組みを決定し、受入れスケジュールについても可能な限り柔軟に対応できる形で決定した。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラムの検討

単位互換の形での学生交流を、長期的なものだけでなく比較的短期的なものでも実現できるように、サマー・プログラム形式での教育に関する取り組みについて検討することにした。平成24年の夏学期期間に、KDIスクールで開催することを協議した。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈 Ph.D. Seminarの様子:KDIスクール 〉



■ CAMPUS Asia Ph.D. Seminarを開催 (ソウル・KDIスクール)

平成24年3月14日、韓国・KDI School(KDIS)においてOne-day Seminarを開催しました。GRIPS Ph.D.学生4名がKDISの教員・学生を聴衆として研究報告を行いました。KDISの学生と活発な意見交換や質問が飛び交い、プレゼン時間を短縮し、ディスカッションに時間を割くなどの工夫が必要なほど非常に活気のある内容となりました。

また午後から園部GRIPS教授による開発途上国の生産性に関する特別講義が行われ、教員・学生間で活発な質疑があり、非常に有意義なものとなりました。

〈 One-day Seminarの様子:清華大学 〉



■ CAMPUS Asia One-day Seminarを開催 (北京・清華大学)

清華大学(北京)にてOne-day Seminarを平成24年3月28日に開催しました。中国のNGO研究の第一人者でもある清華大学Wang教授より、“The Development of China's NGO and the research of the NGO Institution”というタイトルで、中国のNGOの発展と現況についての講義頂きました。さらに、清華大学のXing助教授からは“Public Policy Formulation Process in China: 12th Five-year Plan as an Example”というタイトルで、中国の国政と5か年政策について非常に詳細な講義を受けました。参加した学生には中国の政治について理解を深める良い機会となり、講義後には日本の政策決定過程と中国の政策決定過程の相違点などを活発に議論が行われました。

キャンパスアジア第1号学生としKDIS(韓国・ソウル)から清華大学に派遣されているKyun Heo氏や清華の学生を交えてのキャンパスツアーや清華大学での留学生活の紹介なども行われ、学生同士の交流も深まりました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

上記、KDIスクール(韓国)及び清華大学(北京)での短期研修開催による派遣。

○ 外国人留学生の受入れ

受入れ実績はまだなし。平成24年度秋より受入れ予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C0, K0	C5, K5	C5, K5	C5, K5	C5, K5
中国への受入	J7, K1	J5, K5	J5, K5	J5, K5	J5, K5
韓国への受入	J9, C0	J5, C5	J5, C5	J5, C5	J5, C5

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 学生説明会を開催

本学の学生にキャンパスアジアを周知し、留学候補生の選出することを目的に、学生説明会を開催しました。

○ キャンパスアジア委員会を発足しました

本学研究支援科長を始めとした教授陣5名で形成するキャンパスアジア委員会を発足し、懸案事項の迅速な検討・解決を目指します。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ キャンパスアジアホームページを立ち上げました

<http://www.grips.ac.jp/jp/campusasia/>

大学の世界展開力強化事業 取組実績 名古屋大学

【構想の名称】(タイプAーキャンパス・アジア中核拠点形成支援・日中韓のトライアングル交流事業)

東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)の形成とそのための知識を有する法的・政治的人材の育成をつうじて、東アジアの法的・政治的認識共同体の生成を図る

【構想の概要】

欧米の「法のグローバル・スタンダード」を理解した上で、東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)形成にむけた議論に参画できる、法的・政治的認識共同体の人材形成を行う。中国、韓国の諸大学との連携を図り、東アジアにおける法情報の交換、アジア法・法整備支援論の共同形成、法曹養成と法科大学院の共同スタンダード化など、相互の学部学生を中心とする単位相互認定に基づく交流と質の保証された教育研究交流を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

日・中・韓のQuality Assurance協議会と国際シンポジウムの開催

2月に、名古屋で国際シンポジウムを開催し、参加機関の代表が集まって、本取組の計画、意義および展望についての報告と討論を行った。また、1月(北京)、2月(名古屋)、3月(上海)に三カ国の大学によるQuality Assurance協議会を開催し、(1)「ユス・コムーネトライアングル交流プログラム」に基づく各参加大学の実施計画に関する情報交換、協議、調整、(2)「ユス・コムーネトライアングル交流プログラム」に基づく各参加大学のカリキュラム、シラバスおよび成績評価に関する打ち合わせ、(3)「ユス・コムーネトライアングル交流プログラム」に基づく各参加大学の単位授与、成績評価および単位互換の実施に関する情報交換、協議、調整などを行った。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

短期事前研修 [中国, 韓国]

・中国(2012年3月18日～25日、学生7名、引率2名)

裁判所、大使館領事部・政治部への訪問、中国人民大学と学生間交流

・韓国(2012年2月13日～21日、学生4名、引率2名)

憲法裁判所、法務法人広場への訪問、ソウル大学及び成均館大学での特別講演と学生との交流

〈法務法人広場見学〉

〈中国人民大学〉



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

			H23	H24	H25	H26	H27				H24	H25	H26	H27
日本人学生 の派遣 (のべ人数)	ユス・コムーネトライアングル交流プログラム			10名	10名	10名	10名	外国人留学生 の受入 (のべ人数)	ユス・コムーネトライアングル交流プログラム		10名	10名	10名	10名
		短期プログラム	11名	10名	10名	10名	10名			10名	10名	10名	10名	10名
	事前研修													
	付属プログラム		8名	8名	8名	8名								
	合計	11名	28名	28名	28名	28名		合計	28名	28名	28名	28名		

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

参加学生を対象とした事前学習

〈英語・中国・韓国語 及び 中国法律政治・韓国法律政治〉

参加学生を対象とした英語・中国語・韓国語特別クラス、および中韓の主管校から招聘した特任教授・講師による中国法律政治および韓国法律政治に関する講義、ならびに文化交流ガイダンスを2月に立ち上げた。



学生には、英語と派遣希望国の言語の授業を毎週3時間ずつ提供している。

これらの語学特別講義によって、学生の派遣国での学校生活や日常生活に必要な言語能力を備えられるようにしている。言語教育と共に、中国法律政治と韓国法律政治の講義を導入することで、学生に派遣国の法学に関する基礎知識の提供を図った。



■ 教育内容の可視化・成果の普及

キャンパス・アジア説明会

2011年12月22日 プログラム説明会

2012年 4月 6日 新入生の保護者に対しキャンパス・アジア説明会

18日 新入生対象(40分)

19日 二年生以上対象(1回目)

23日 二年生以上対象(2回目)

* 説明会に伴いポスター、概要を作成



大学の世界展開力強化事業 取組実績 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

持続的社會に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社會を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大學、上海交通大學)、韓国(ソウル國立大學校、浦項工科學校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

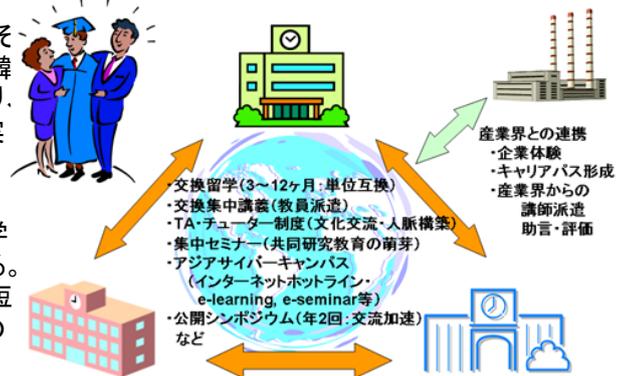
■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力なコンソーシアム

上海交通大學、南京大學、ソウル國立大學校、浦項工科學校とも、それぞれの国を代表する大學である。名古屋大學、東北大學とも、中国・韓国の4つの大學と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大學とは、単位認定や成績管理を統一的に実施できる制度を整備している。

○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的でトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることにより、言葉の壁を取り払って活躍できる人材を育てる。産業界でグローバルに活躍できる人材の育成も視野に入れる。また、短期集中セミナーを随時企画し、専門分野のニーズに則した教員と学生の交流を行なう。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

名古屋大學でキックオフシンポジウムを開催(2012/3/12-13)



○ キックオフシンポジウムの開催

平成24年3月12-13日に、6大學の関連教員と学生を一堂に会するキックオフシンポジウムを開催し、情報交換と交友を深めるとともに、今後の事業展開について意見交換を行った。

○ サイバーキャンパス形成に向けたインフラ整備

平成23年度に大學間でリアルタイムで情報交換を行い、ネットを通じて国を超えたセミナー開催ができるように、テレビ會議システムを整備した。今後本格的に活用していく。

○ 参加部局を超えた交流へ

大學間の協定に基づき、有効な交流のために参加部局を超えた交流へ向けたアプローチも積極的に考慮していく予定である。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行うとともに、各大學に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。集中セミナーでは随時一週間程度でトータル20名の学生派遣を予定する。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C1K0	C17K17	C16K16	C16K16	C16K16
中国への受入	J0K0	J17 K4	J16 K6	J16 K6	J16 K6
韓国への受入	J0C0	J17 C4	J16 C6	J16 C6	J16 C6

注) H23は実績、H24以降は計画。人数は交流セミナーとH24はSVSSの人数も含む。

○ 外国人留学生の受入れ

受け入れについても上記に準じて進める予定である。東北大ではH23年度に計画前倒しで南京大の学生を受け入れた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 名古屋大学・東北大学における整備

両大學ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舎整備等を積極的に進めている。

○ ショートステイ・ショートビジット(SSSV)との連携

平成24年度は当事業の枠組みと連携させた形のショートステイ・ショートビジット事業が採択された。3か月に満たない学生の交流についても体制を整え(受け入れ、派遣ともに6名)、学生あるいは受け入れ側の諸事情に柔軟に対応させて学生を交流させる仕組み作った。平成25年度以降もこの申請を続けていく予定である。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページの開設・パンフレット・ニュースレターの発行

平成23年度にキャンパスアジア専用のホームページを開設し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。今後、パンフレット作成やニュースレターの定期的な発行を予定している。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 神戸大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム
【プログラムの目的・養成する人材像】神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。
〈グローバル人材像〉①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。
【構想の概要】グローバル化の進む今日においては、自然災害であるか人災であるかを問わず、近隣諸国との密接な協力の下、被害拡大防止に向けた迅速な活動に取り組むことのできるグローバルな人材養成が急務である。
 本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置

〈復旦大学SIRPAと高麗大学校GSIS〉

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意した。これにより、神戸-高麗、神戸-復旦での2年間でのダブル・ディグリー取得に向けた準備が整った。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が既に締結されている高麗大学校国際大学院(GSIS)との間では、プログラム実施に向けて具体的な細則を整備した。復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)との間でも、同様の協定・細則の締結について既に合意に達している。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈三大学共同キックオフ・シンポジウムの様子〉



○ 国際シンポジウムの開催

日中韓三大学共同キックオフ・シンポジウム(平成24年2月23日)を開催し、3か国から60名以上の教職員や大学院生が参加し、リスク管理をめぐる日中韓三大学の緊密な協力関係の必要性を確認した。

○ 各大学の学習・生活環境視察

平成24年3月に復旦大学・高麗大学校を訪問し、学舎および寄宿舎の環境を視察するとともに、両大学院スタッフとの交流を通じて、相互の協力体制の構築を進めた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本学大学院生1名を、交換留学生として高麗大学校国際大学院へ派遣している(平成24年2月~6月の予定)。平成24年度の派遣に係る募集についての説明会を行い、現在審査中である。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C3, K3	12~16	12~16	12~16
中国への受入	0	J3, K3	10~16	10~16	10~16
韓国への受入	J1	J3, C3	10~16	10~16	10~16

注)H23は実績、H24以降は計画。

○ 外国人留学生の受入

平成24年度より受入れ開始予定であり、復旦大学・高麗大学校でそれぞれ選考が進められている。両大学とも、神戸大学への平成24年度派遣学生数は、計画通りの3名ずつとなる見通しである。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 「キャンパスアジア室」の開設

本プログラムに基づいて留学を希望する本学学生への対応と、今後受入れが予定されている復旦大学・高麗大学校からの留学生に対するケアを目的として、中韓米国での教育経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を開設した。

○ 事前教育カリキュラムの整備

復旦大学・高麗大学校における事前教育のためのリソースについて調査を進めるとともに、今夏の受入・派遣留学生のための事前教育プログラムの整備に向けて、準備を進めている。



〈キャンパスアジア室〉

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ パンフレット作成・ホームページの開設

本プログラムの教育内容について内外に周知するパンフレットを作成するとともに、今後の成果を普及させるための基盤として、ホームページ(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>)を開設した。

○ 第1回評価委員会を開催

外部委員も含めた評価委員会を開催し、平成23年度のプログラム活動内容を検証した。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 岡山大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的視野と地域の文化に精通した公務員、医療、環境、生産などで3国の協業をリードできる中堅幹部候補を育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(Starat-up Conference 2012年3月)

1 東アジア共通の教育体系確立

教育方法を相互に調整・改善し、最終的には東アジア共通の教育体系の確立を目指す。さらに、ジョイントディグリー制度を導入し、複数大学による共同指導を実質化する。

2 課題解決型の人材育成

共通善の実現に貢献できる人材を育成するための、日中韓に共通する課題に対応した課題解決型の演習、地域の自治体や企業との協働教育プログラムを取り入れる。

3 成績管理、単位の相互認定制度

共通教育を検討する委員会を設け、評価方法や講義の内容、単位の相互認定に関し「ラーニングアグリメント」を締結する。さらに、ピアレビュー制度を導入し、の授業の質を高めると同時に、相互に教育の経験を交換する。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(成均館大学校SS/SV派遣学生 2012年2月)



1 実施した交流プログラムの概要

Start-up Conferenceで3校の事業内容が確認された。岡山大学からは吉林大学、成均館大学校に学生を派遣し、また成均館大学校から留学生を受け入れた。

2 予定される交流プログラムの準備状況

H24から長期留学、SS/SVに加えてサマー・セミナーが開始される。また、共通科目の設置、共通教科書作成、ナノ・バイオコースの開設が準備される。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1 日本人学生の派遣

岡山大学からは、毎年吉林大学、成均館大学に長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各10名を含む40~50名の院生、学生を派遣する。

2 外国人留学生の受入れ

吉林大学、成均館大学からは、毎年長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各15名を含む50名以上の院生、学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C 0,K12	C20,K32	C31,K43	C27,K39	C27,K39
中国への受入	J14,K 4	J25,K15	J25,K15	J32,K15	J27,K15
韓国への受入	J 5,C 5	J17,C 5	J17,C 5	J19,C 5	J24,C 5

注) H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1 日本人留学生の送り出し

吉林大学、成均館大学に岡山大学のランチオフィスを置き、研究テーマのマッチング、留学手続きなどがスムーズに行われるよう支援する。また、留学予定者に対する語学、東アジア文化論、異文化コミュニケーション論教育を強化する。

2 中国人、韓国人留学生の受け入れ

ランチオフィスでワンストップサービスを実現する。また、オンライン指導システムを構築する。岡山大学内では、宿舎、奨学金充実のほか、チューター制度、ランゲージカフェを通じたサポート体制を充実させる。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

外部評価制度と成果の公表

インターナショナルレビュー・ボード(外部評価委員会)を設置し、教育内容の検証を行うとともに、教育システム構築の成果をホームページ等を通じて積極的に公表する。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 九州大学

【構想の名称】(タイプA—I CAMPUS Asia Pilot Program)

エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

専門分野の深い知識を修得し、それに基づく研究開発能力、エネルギー環境問題の現状の理解と発展的考察力、グローバルに活動するために必要な英語力を兼ね備え、かつ研究/技術者倫理を持ち、異国の文化・人・社会を理解できる人材。

【構想の概要】

エネルギー問題とそれに関係する環境問題に関わる科学と技術分野において、将来グローバルに活躍できる高度研究者・技術者を国際連携の下で育成するためのダブルディグリー理工学大学院協働教育プログラムを、九州大学(日本)、上海交通大学(中国)、釜山大学校(韓国)が共同開発し、本格的に実施すること。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

質の保証を伴ったカリキュラムの体系的設計

プログラムや教育情報の公開、教材の共同作成、共同成績審査、単位・成績互換、出口管理の厳格化を3大学間で協議し、問題点抽出と解決に向けて協議中。

成績管理、学位授与の統一的実施

日中韓大学コンソーシアム内にPDCAリーダー委員会、各大学にPDCA委員会を設置し、本大学院協働教育プログラムの点検評価とそれに基づく改善、共同教材の開発、参加学生の成績管理と学位授与の共同審査を統一して継続的に行う。

ダブルディグリー授与の検討

インターンシップ科目、課題解決型科目、知財を含む技術者・研究者倫理科目等を設定し、3大学合同でコース修了証明証を授与する。さらに、単位互換を活用した専門教育科目の単位認定、修士論文研究の共同審査方法を確立し、共同学位の授与またはダブルディグリーの授与に向けた検討/試行を行う。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈スプリングセミナー風景〉



キックオフミーティング、PDCA委員会開催、中国および韓国での打合せの開催

中国、韓国側からプログラムにたずさわる教官およびスタッフを、それぞれの国から6名および8名を招聘し、キックオフミーティング、PDCA委員会を開催、またサマースクールの詳細決定、および留学生への教育体制と講義内容等を議論した。

スプリングセミナー実施

本プログラムで24年8月に実施されるサマーセミナーの予行として、中国、韓国から学生を受け入れ、2日間の日程でスプリングセミナーを実施した。プログラム実施の上での問題点の抽出、解決への議論ができ、極めて有意義であった。

〈3大学学長による調印風景〉



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

本プログラムにおいては、交換留学、3大学回り持ちのサマースクール(韓国→日本→中国)及びオータムセミナー(日本→中国→韓国)により学生の交流を行う。

○ 日本人学生の派遣

上海交通大学、釜山大学校への半年間の交換留学生として、H24年は各3名、九州大学において環境理工学国際

コース(10名)を設置して大学院協働教育プログラムを本格実施するH25年度からは各5名を派遣する。さらに、サマースクール(10日間)、オータムセミナー(3日間)が中国、韓国で開催される場合には、各20名の学生を派遣する。H25年度以降のサマースクールのオープン化に伴い国内他大学所属学生5名を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

半年間の交換留学生として、上海交通大学、釜山大学校からそれぞれ3名(H24)、5名(H25以降)、日本開催のサマースクール、オータムセミナーに各大学より10名を受け入れ、サマースクールオープン化のための中韓以外のアジアの協定校から5名を派遣、受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27	計
日本への受入	C10,K10	C14,K14	C16,K16,他5	C7,K7	C17,K17	133
中国への受入	0	J4,K4	J26,K16	J32,K17,他5	J7,K7	118
韓国への受入	0	J24,C14	J6,C6	J27,C17	J32,C17,他5	148

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣

グローバル性の涵養のみならず、アジアを中心とするグローバルなキャリアパス形成を可能とするために、留学が就職の障害とならないような就職情報の提供やメール相談を行うとともに、参加学生への企業からの冠奨学金等の獲得など修学支援・就職支援・生活支援を強化し、日中韓の参加学生を全面的にサポートする。

留学生の受入

英語による講義経験を持つ特定プロジェクト教員(2名採用)、国際交流コーディネーターと既存の教務課職員、当プロジェクト専用の支援スタッフ(2名採用)及び事務補佐員(2名採用)で構成したCAMPUS Asiaオフィスを設置し、修学指導、在籍管理、生活支援を行う。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

プログラム独自のホームページ(<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/>)を設置し、取組実施状況とプログラムの詳細など必要な情報について、掲載済みである。また日中韓大学コンソーシアム(3大学)主催による国際シンポジウム等を実施し、各大学の関係者や学生への普及を図る。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 立命館大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外大)、東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同で運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学合同教職員会議

H23年度12月に東西大で、2月で広東外大で三大学合同の会議を実施したほか、12月にはTV会議も行い、本プログラムのカリキュラムおよび実施体制を確認しました。

○ 運営委員会

本学の教職員で運営委員会を構成し、月例で会議を開いて、三大学合同教職員会議・TV会議と相互に連携して本プログラムの運営に関わる課題を協議しました。

○ 相談窓口の設置

中韓それぞれの言語に長けた任期制教員による相談窓口を各週1日以上、設置することで、特に移動キャンパス中のパイロット学生のサポート体制を整えました。



〈三大学合同教職員会議の様子〉

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈連携講座・春季ショートステイ中の講義風景〉

○ 日中韓連携講座・ショートステイの実施

H15年度から継続して開講している日中韓連携講座にて、H23年度の夏季は本学で、春季は広東外大でショートステイを実施し、三大学の学生20名ずつ、計60名が交流しました。(※夏季ショートステイは本事業の対象外)

○ オリエンテーション・ショートステイ実施に向けた準備状況

H24年度8月のオリエンテーション・ショートステイに向け、シラバスの確認を行ったほか、中韓の語学カフェを設け、学生に対する語学のフォローを行っています。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日中韓連携講座・春季ショートステイにて20名を1週間、広東外大へ派遣しました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入		C40,K35	C30,K30	C30,K30	C20,K20
中国への受入	K20,J20	K25,J30	K30,J30	K10,J10	K20,J20
韓国への受入		J45,C40	J10,C10	J30,C30	

注)H23は実績、H24以降は計画。



〈連携講座・春季ショートステイの集合写真〉

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ CAMPUS ASIA CAFEの開室

パイロット学生に限らず、日中韓に関心を寄せる本学の学生や留学生の交流スペースとして同CAFEを開室しました。同CAFEでは中韓基礎文献を配架したほか、週に4日語学カフェ(語学講座)を開き、学びや交流の場として活用しています。

○ 任期制教員・専門職員の配置

中韓それぞれの言語に長けた任期制教員2名に加え、CAMPUS ASIA OFFICE(事務室)を新設し、本プログラムに専門で従事する職員3名を配置することで、学生のサポート体制を充実させました。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 広報パンフレットおよび『日・韓・中連携講座報告集』の作成

本事業概要をわかりやすくまとめた広報パンフレットや、学生のレポートを中心とした日中韓連携講座ショートステイ報告集などを作成し、学内外に対する本プログラムの説明・普及に役立てている。

○ キャンパスアジア・プログラム専用HPの開設

本プログラム専用のHPを開設し、概要説明のほか、説明会や語学カフェ、相談窓口設置等のニュース配信、ブログを通じた教職員からの情報発信・公開を行っている。